

[成果情報名]根深ネギのチェーンポットを用いた大苗利用による夏越し作型の収量向上技術

[要約]チェーンポット苗を用いた根深ネギ栽培において、育苗時の栽培密度の調整及び育苗期間の延長を行うことで、慣行苗よりも生育の進んだ大苗の育成が可能となる。7月定植の作型において、大苗の定植後の葉鞘径は慣行よりも優れ、12月の収量は慣行より増加した。

[キーワード]根深ネギ、大苗、育苗技術、チェーンポット、夏越し作型

[担当]大分県農林水産研究指導センター・農業研究部・葉根菜類・茶業チーム

[代表連絡先]電話0974-28-2082

[分類]普及成果情報

#### [背景・ねらい]

大分県の根深ネギにおいて、4～5月に定植し、11月～2月に収穫する夏越し作型では、梅雨の大雨や夏期の猛暑により生育が停滞し、収穫期の遅れによる年内収量の低下が問題となっている。そこで、慣行苗よりも生育の進んだ大苗を育成する技術を開発するとともに、この苗を利用した梅雨明け後の7月定植、12月収穫作型における収量向上効果を明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

1. チェーンポットで育苗した苗を播種後1.5か月程度で、苗箱1枚から2枚に並べ替える展開作業により株間を広げ、さらに1.5か月間の二次育苗を行うことで、慣行より葉鞘径が太い大苗を育成することが可能である(表1・図1)。
2. 7月定植作型において品種「夏の宝山」の大苗利用は、慣行より定植後の葉鞘径が優れる(図2)。
3. 7月定植作型の12月収穫において品種「夏の宝山」の大苗利用は、慣行より2L収量及び合計収量が多い傾向が見られた(図3)。

#### [普及のための参考情報]

1. 普及対象：根深ネギ生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：大分県内8ha(2022年)
3. その他：育苗培土は白ネギ専用培土(菱東肥料)を使用し、液肥(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=10:4:8)を200倍希釈し、苗1枚あたり500mlを週1回施用する。育苗箱の展開時に同培土を苗箱1枚あたり1.5L追加する。基肥はN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=6.4:13.4:6.4(kg/10a)、追肥はN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=19.2:12.8:19.2(kg/10a)を5回に分けて、土寄せ時に施用する。

#### [具体的データ]

表1 定植時の葉鞘径 (単位:mm)

品種	慣行苗	大苗
夏の宝山	2.5	3.6
t検定結果	**	

※t検定結果：\*\* 1%水準で有意差あり。

※大苗の播種日は2018年4月5日、慣行苗は5月17日。チェーンポットCP303(264穴)に1穴2粒播種した。

※調査日は2018年7月13日。

※試験場所は大分県農林水産研究指導センター農業研究部育苗ハウスである。

※使用培土、施肥は普及のための参考情報に記載したとおりである。

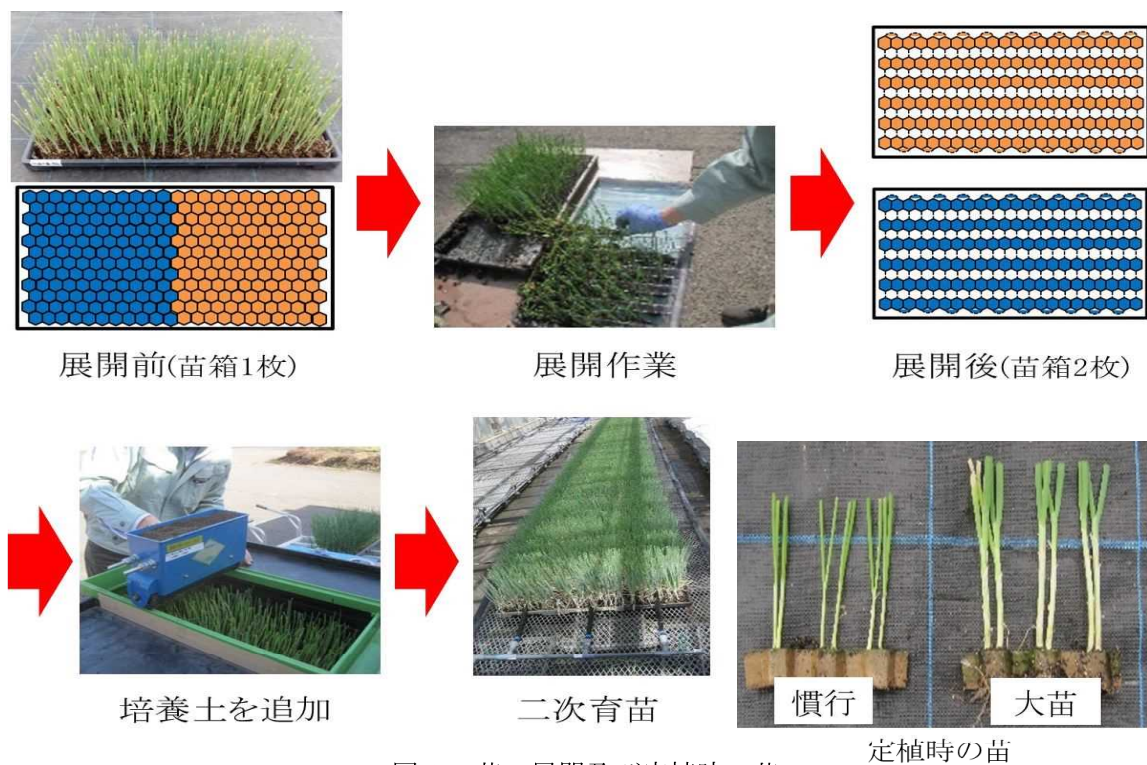


図1 苗の展開及び定植時の苗

※展開作業はチェーンポット苗1枚（264穴）を分け、育苗箱2枚に並び替える。

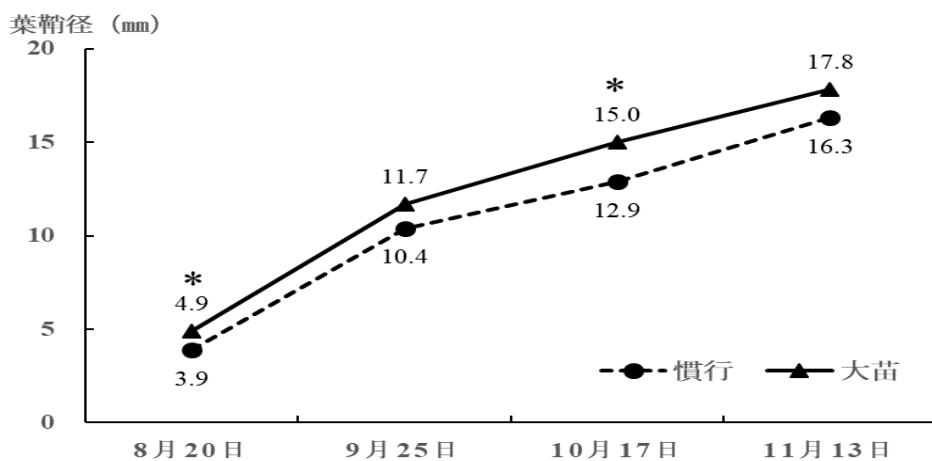


図2 葉鞘径の推移

※t検定結果：\* 5%水準で有意差あり

※品種は‘夏の宝山’、試験場所は大分県農林水産研究指導センター農業研究部内の黒ボク圃場である。

※定植日は2018年7月13日

※栽植様式は畝間100cm、植付本数1mあたり40本である。

※区制は1区5㎡、3反復。

※施肥は普及のための参考情報に記載したとおりである。

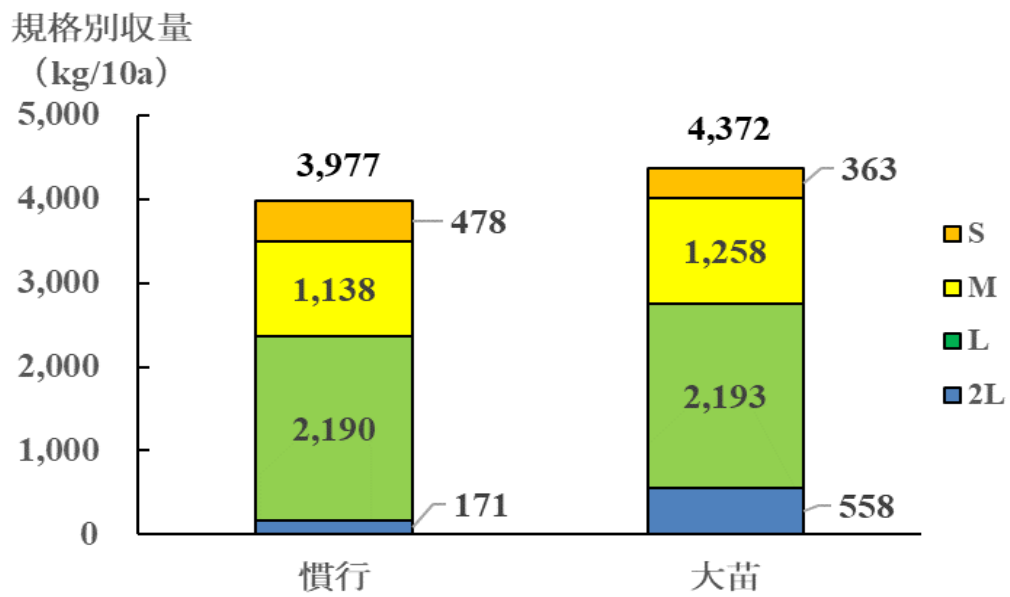


図3 規格別収量

※品種は‘夏の宝山’

※収穫日は2018年12月25日、調査日は12月26日

※耕種概要は図2に同じ

(大分県農林水産研究指導センター農業研究部)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2018～2020年度

研究担当者：大坪亮介、三宅美穂、平将吾